郷土資料 大宮市地区編　昭和四十六年十一月廿八日

# 第四十四回史跡めぐり資料（大宮領）

越谷市郷土研究会

# 第四回史跡めぐり案内

越谷市郷土研究会

一、日時　十一月二十八日（日）
　　午前九時三十分　越谷駅集合

一、場所　（コース）

越谷駅（十時出発）
春日部
大宮公園下車
○県立博物館
○北沢楽天漫画会館
○大宮盆栽村
○越谷駅

一、其の他　会費　三百円
　　但し　昼食は各自ご持参下さい。

## 目次

案内……巻頭　地図……巻末参照の事
大宮市の生いたち……二頁
新編武蔵風土記稿（大宮領）……三頁
大宮公園……四頁
北沢楽天……〃
大宮盆栽村……〃
楽天記念館……五頁
氷川神社……〃
大宮市の文化財遺しるべ……六頁
独鈷石　土版　耳飾
縄文式土器　満願寺板石塔婆
仁王像　弥生式土器
みみずく型土偶
寿能城趾　藤子一里塚……七頁
土呂の大杉　氷川神社行幸絵巻……八頁
秋葉神社その他……〃

# 大宮市の生いたち

はじめに地名のおこり。
かつて氷川神社を「大いなる宮居」と呼んだことから発したように、大宮市は武蔵国一の宮として知られる　氷川神社に象徴されます」と

## （その一）

一、上古時代にすでに我々の先祖民族が居住していたことは明らかである。大和時代の初期東国の経営に来た出雲族国らの手によって、国内統治初頭のため、祖神三柱を祭祀した氷川神社の創建がその発祥のようである。

一、その後武蔵国造がこの地に拠り、祖神の祭祀とともに武蔵国府をおいて祭政一致が布かれるようになってから武蔵国の中心地となった。

一、奈良時代に、氷川神社が「武蔵国一の宮」と制定されて、同社を「大いなる宮居」あるいは「大宮居」と崇めたことが、いつの世からかその地名を「大宮」と呼ぶようになったと伝えられる。

二、かつては中仙道の宿場町として江戸から凡そ七里十六丁。木曽路につながる一宿駅であった本市も明治十八年大宮駅の開設を見て以来、県内交通機関の分岐点として重要な位置を占めるに至った。現在本市を通過する鉄道路線は、

1. 国鉄　東北本線
2. 上信越線
3. 起点とするものに京浜東北線、川越線
4. 私鉄としては　東武野田線等である。

## （その二）

古くは中仙道の宿場町として栄えたが明治十八年、大宮駅が開設されてからは鉄道の町として、鉄道と共にその歴史を刻んで来たが、最近は首都北門の町として発展しつゝ歩んでいる。

沿革を知るには歴史全般をひもとかねばならないが大宮は年表にても知ることが出来る（編図としろ）而しそのつながりは解しにくい。今その要点のみ記して　そのよしがとしよう。

一、かつては満々とした水をたたえていた見沼。
昔い大宮は、その見沼の入江に面した現今の黒塀、與山・寿能寺の水際の台地に発達したものと思われる。

# 新編武蔵風土記稿

巻之百五十三
足立郡之十九

## 大宮領

自八五頁下段
至八六頁上段

### ◎大宮宿

大宮宿は当郡一の宮立てる地なればその名となせりと云う。正保改めの帳には大宮町と記せり。又当所は「国郡本郡」に載る単差志の府を置かれし地なることは既に郡の総説にいへり。其の地は郡の中央より少し西へよれり。中山道六十七駅の一にして江戸よりを里を離て浦和宿へ壱里十町、上尾宿へ二里の行程なり。又熊王郡岩槻城下まで二里、郡内與野町へ三十丁、原市村へ二里ありてこの五ヶ所往来の通路なり、高麗郡に属す。

当所の宿駅となりしは、古きよりのことにはあらず。昔は今の本村、高鼻、上手宿の三村を合して、大宮と呼びて村落なりしを、御入国の後中山道を開かれし時、伊奈備前守忠次が指揮にて、百姓屋敷四十二軒に地子を免じ、始めて人馬継立をなさしめしとあり、其頃は往来も今とは変りて、氷川鳥居大門より大門へ出、一鳥居の辺より今の中山道通へつゞきたり。然るに年を経て宿駅繁多にして、寸暇に勝りしかば、寛永五年伊奈半十郎忠次が計らいにて、今の往来其頃原野なりしを、地割して町並となし、六間四千三百十三坪餘を地子免として、経立の費用に宛てたりしと云う。則今の本村・北原右衛門八分・甚之丞新田、吉舗町、新宿中町、新宿下町是なり。此七所を通じて総名大宮宿と云り斯て当所の町数は五十・人馬五十匹と定められしかど、猶時として往来繁多なるために、元禄七年近郷一万千八百廿七石餘の村々に課して人馬とも助立することに定めしなり。

民家二百餘軒、多くは宿の往来に由て連在せり其四隣の大塚は南の方北袋。上落合の二村に続き北は大成、上手宿、高鼻の三村に並び、東は三沼の新田を隔て南部領大和田、中丸の二村に接し、西は上中下小村田の三村なり、東西の径り三四丁南北五十町に及ぶ。

当村天正の頃は鴨田出羽守・同左馬允等編せしと云えり。御入国の後は世々御料所にて、ただ宿駅の内わずかの地を伏見源次郎知行す。この其事録

の内三河代官水野罰せられし時、棚備濱の地の代と
　なりしなりと云う。
検地は天正二十年、伊奈熊蔵が検地せしを古しとすれど、こは本村のみの検地なりと云う。其の後寛永六年、伊奈半十郎検地し、又新開の地は享保十六年柴村藤右衛門、伊庭市兵衛、村上左五左衛門、池田喜八郎、布施弥市郎、中島十左衛門等組し、享保二年山崎弥右衛門、久保田伝七郎組せり。

◎大宮公園

氷川神社の神域につらなる大宮公園は、総面積廿七万平方米の老松に彩られた自然公園である。園内には児童遊園地をはじめ、小動物園、ボート池、万葉植物園、弥生式古代住居跡などがあり、また県下唯一の総合体育施設が整い、埼玉スポーツのメッカとして広く親しまれている。

◎北沢楽天　　物故者ながら　昭和三十一年五月三十日推挙されて名誉市民としてなった人。社会文化の発展に功績があったのでたたえられて名誉市民となる。前高倉次氏と共にその第一号……この人は

大宮市が生んだ近代漫画の創始者で、明治年間から昭和の初頭まで、日比報知、東京パックなどに政治社会の風刺面に独特な筆致をふるい、家庭に健全な笑いを送り込みました。

門下生には下山凹天、川端龍子、長崎抜天、麻生豊、近藤日出造、田中比左良、松下井知夫、西川辰美氏などがおられます。

漫画館資料参照のこと。以下略

◎大宮盆栽村

概説

盆栽組合案内によれば国電大宮駅からバスで五分
大宮駅東口、東武線大宮公園駅、徒歩三分
主なる園は次のように紹介されている。
芙蓉園、九霞園、清香園、蔓青園、寿吉分園、雲溪園、藤樹園、一光園等があり　樹齢五百年から一五〇年にも達すると言う銘木等が在る。

大宮盆栽は、われわれの先祖が、大自然を憧憬する大きな感動の心から独創された命ある植物芸術で、こまやかな愛情と高度な技術によって、年輪を重ねるごとに、いい知れぬ優雅さと格調を高め

てゆくものである。わずか尺寸の盆上に永い生命を、保ちながら、大自然の神秘と優れた美しさをあらわし、観る人に大きな感動と希望とを与える。

大宮の盆栽村は、大正十四年に盆栽家数軒が移住して開拓したわが国唯一の盆栽専成地で、大宮公園以北の、いまなお武蔵野の風情をとどめる赤松の林に囲まれた気流と水清き別天郷にある。

拾万坪に及ぶこの盆栽村には、一つの枝に数百年の年輪をこめて、高貴の品格を一鉢に表現する千数万鉢の盆栽が生気よく育成されている。

いまわが国の盆栽づくりの名所として国内の愛好者はもとより、外国人の訪れも多く、特に世界的日本ブームにのって遠く海外に渡る盆栽も多く、日本の「盆栽」になっている。

代表的なものを二〇三選介すると

1. 幽壑　えぞ松　樹令一五〇年　鉢　紫泥長方形
2. 千羽鶴　五葉松　樹令三百年　鉢　古渡島泥長方形
3. 三幹　根張柏　樹令百五拾年　鉢　紫泥丸
4. 根廻　杉　樹令二拾年　鉢　紅かはん
5. 株立　もみじ　樹令二拾五年　鉢　紫色楕円形

このような樹令と雰囲気を観るのは珍らしい。

## ◎樂天記念館

註　さきに記録した大宮市名誉市民、故北渡樂天の業績を顕彰するため

本市では　美子の長崎被天、松下社夫、西川辰美氏など関係各市を中心とした樂天顕彰会の協力を得て、市内盆栽町にある

「樂天居」

の敷地内に「鉄筋二階建」の記念館

館内にはその遺作、遺稿数千点を展示し、更に世界各国の、漫画関係資料を集めた　漫画センターである。

鑑賞「良寛、詩書画象」が有名である。

## ◎氷川神社

市内高鼻町の名樹ろっそうたる神域に鎮座し、今からはるそ二千年余の昔　孝昭天皇の代に創立されたと伝えられる。祭神として　須佐之男命・稲田姫命・大己貴命の三柱が祀られ、聖武天皇の代に「武蔵国一の宮」と定められ、歴代天皇の崇敬も厚い。鎮祭祭四月五・六・七日例大祭八月一・二日他。

# 大宮市の遺しるべ

## 資料　大宮市郷土資料委員会所管

### A　磨製石

本市の管内の奈良瀬戸遺跡から出土したものである。縄文時代の晩期、約二千年から二千五百年前の縄文時代の終りごろの石器で東日本特有のものであって両頭を鋭らせた石斧。正確な製作年代に依って得られたものとしては珍しく貴重なものである。

### B　土偶

出土時代は磨製石時代と同じく縄文時代の晩期一種の護符と推定される。大きさは、土面の模様構成から、面の面白さ、完成品である事から日本土偶の代表作とまで云われている。発掘によって学界から注目を受け考古学上の資料として貴重なものである。

### C　耳飾

出土地、時代は前二者と同じく奈良瀬戸遺跡に属し、縄文時代の耳飾りとして使用した土製のものである。約一六の個程出土し、形状大きさが異なり当時の文化を裏付けるものとしてその精巧さにおどろく。

### 縄文式土器　県立文化会館所蔵

この縄文式土器は中期のものと推定されその時代の特色加曽利E式で高さ三十cm幅二十五cm全体の厚さ一cm余りの素焼灰褐色の荒い粘土を左斜縄文の荒目が施されている。形状はカリパ型と称される。大型土器の大半がこれに属す。

### 満願寺板石塔婆　満願寺に在り。

この石塔婆は板状の形状に特色があり、鎌倉時代後期即ち約六四〇～六五〇年前の作品である。形態が美しく保存状態も良好であるから、中古の大宮を知る上に欠く事の出来ない貴重な資料である。市内には約千基の石塔婆があるが市文化財指定五基の内の一つである。

### 仁王像　慈恩寺蔵（市指定文化財）

遊行造像円空の作。諸国遊行の途上に作像したものであるがその作は頗る多い。円空仏の中には加木・檜・栗、仁王と種類も多いが全体を通じての特色は桧又は杉の柾目を選んで彫ったものであり、平ノミで鋭く切り込んだ所に厳しい表現があり、ここに造形感覚の鋭さ、自然の木

庄の材質と表形を非常な巧みさを使っている点にある。この仁王像（高さ五十一cm）は強い荒けずりの中に神に対する一心不乱な祈りの姿が彫りにされている。

## 弥生式土器

大宮市県立文化会館敷地出土　県指定文化財

弥生式時代中期の典型的なもので久ケ原式の壺形土器である。高さ三〇cm、生地は弥生式独特の明るい白褐色の素焼の肌で、その清らかなる面にはつや出しをした形式がある。全体からの感じは　おおらかなふくらみときりっとしたしまりがうかがえる出来栄えである。

## みらずくに似た土偶

大宮市教育委員会蔵。

今から二千～三千年前のものと推定されるこの種の土人形のなかで最古の土偶と云われるものは石器時代の発掘品の中にある。

この土偶の特長としては、現代には思いもつかないような奇抜な形をしたものであり、いのりか言じないに用いたものか、単に人形として作られたものかは不明である。

みらずくに形が似ているとからみらずく形土偶という名称があるが、高さ十三cmで表現は平面的である。単純化された造形の中に力強いものが感じられる。

## 寿能城跡

大宮公園の東北五百米、今の寿能公園は寿能城本丸の跡と伝えられている。

天正十八年四月、城主潮田出羽守資忠は家臣と共に小田原城で討死し、翌五月、寿能城も豊臣方の手に依って落城、城は炎上したと云われる。

今はただ出丸の跡が往時を偲ばせるだけで、本丸附近の小高き塚に城主の墓碑が現存している。

## 塚子一里塚

市内塚子にある一里塚は江戸時代の初期に築かれたもので、日光街道と称えられていた頃「江戸より八里、岩槻へ一里」の道標で、当時は街道の両側へ築かれ、塚の上には樹木植えられていたが、現存するものは東側のものである。

## ◇土呂の大杉

一名「雷立杉・逆さ杉」とも云われ故事もあるが大日本名樹志亦誌にも掲載されている名木で、樹令約八百年・樹高約二十米・幹廻リ七米の雄大さは他に類例を見ないと称されている。

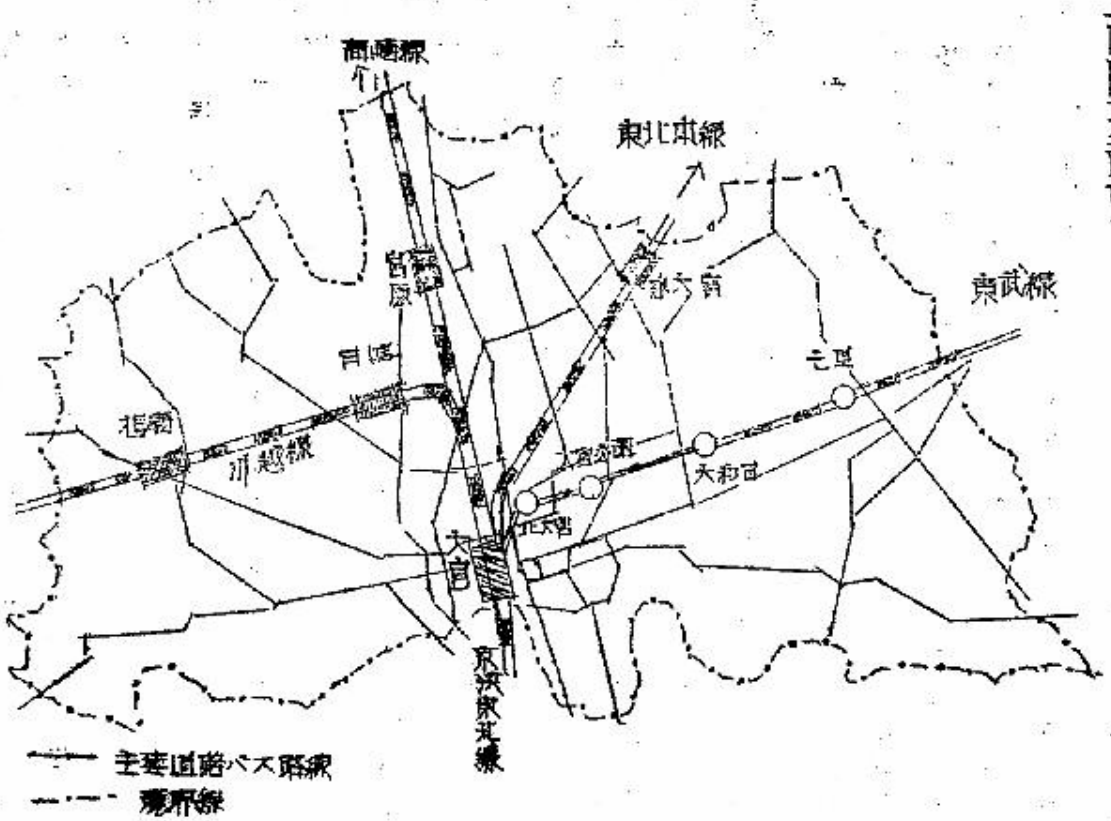
## ◇氷川神社行幸絵巻

明治天皇が氷川神社へ行幸された時の模様を、川越氷川社の祠官山田衛居氏の筆に依って長さ十三米・幅四五糎の絵巻に収めたもので、兵隊、輦丁、公達などその服装も・洋服、衣冠、直垂さまざまな時代色をあらわしている。（氷川神社々宝の一つである。）

## ◇秋葉神社

四五代屋武天皇の天平年間　市内福扇（中釘）地内に創建されたといわれ火防避難除けの守護神として崇敬されている。

## 其の他

郷土芸能に「今羽のささら獅子」などがある。

## 市内交通図